

千葉氏の分立と南北朝の内乱

上杉禅秀の乱・永享の乱と千葉氏

室町時代になると関東には鎌倉府という役所ができました。この長官は、鎌倉公方といい、これを補佐したのが、関東管領でした。この体制は、はじめはうまくいったのですが、四代目の公方であった足利持氏と関東管領であった上杉氏憲(禅秀)の間で争いがおきました(上杉禅秀の乱)。千葉介満胤は氏憲の親戚であったため氏憲側につきましたが、氏憲が討たれると持氏に降伏しました。この乱の後、足利持氏は室町幕府と対立して戦いとなりましたが、幕府に敗れて自殺しました(永享の乱)。千葉介胤直は、最初、持氏側でしたが、持氏が幕府に攻められると幕府側であった上杉氏について持氏を攻めました。



足利義教像 京都市等持院蔵

室町幕府六代将軍。義満の子。当初、出家して義円と称した。将軍義持の死後、還俗して将軍となった。



伝足利持氏供養塔 鎌倉市別願寺



永安寺跡

足利持氏は、将軍足利義教と対立。永享の乱(1438)で幕府軍に敗れ、鎌倉永安寺で自害。



上杉禅秀館跡 鎌倉市浄明寺

